

## 平成19年度都市景観デザイン審査個別協議 会議要旨

### 1. 審査会の日時、場所、出席者、議題

(1) 開催日時 平成20年 1月30日(水) 午前10時～同11時30分

(2) 開催場所 市立男女共同参画センター 第3会議室

(3) 出席者

- ・都市景観デザイン審査会委員  
徳尾野会長、聴濤委員、岩井委員、藤本委員、
- ・事務局（都市産業活力部 都市創造室 都市計画デザイン課）  
村上部長、大路室長、福永課長、西本副課長 田口係長、橋本技術職員
- ・都市再生課  
山本課長、羽田係長
- ・建築営繕課  
影山副課長、君田技術職員

(4) 議題

宝塚音楽学校旧校舎改修事業

(5) 傍聴者 なし

### 2. 会議の要旨

事務局：本日の会議には事前に会長より出席予定の委員は4名であり、宝塚市都市景観デザイン審査会規則第6条第2項の規定により、審査会が成立する定足数に満たない為、審査会は開催出来ない旨通知が有りましたので、本日は出席されている各委員の個別協議として景観に関する意見・指摘を頂きたい。

会長：了解した。協議を開始する。

事務局：前回の審査会の議事録について承認を求める。

各委員から修正すべき記述は見あたらない旨の発言在り。

会長：前回の審査会の議事録を承認する。

★☆☆☆☆ 議事 ☆☆☆☆☆

会長：今回の案件について計画を説明して下さい。

都市再生：都市景観デザイン説明書に沿って説明した。

- ・ 今回の事業計画は、旧校舎の保存利活用のみではなく隣接する土地約3,800㎡を街区公園として一体的に整備し、建物と公園合わせて約6,000㎡の規模となる。
- ・ 公園の整備計画は中央に芝生広場、その一端に野外ステージを設け屋外でイベントを行えるように計画している。
- ・ 当該地へ至るアクセス道路を整備する。武庫川通り線及び桜橋（市道604号線）に巾約3mの歩道を設ける。
- ・ 現在桜橋の下は通行できないが、そこを通行できるように整備し、隣接するガーデンフィールズからの進入路とする。
- ・ 建物の沿革は、昭和10年に公会堂として建てられ、その後戦前から音楽学校として平成10年まで約45年間使用され、現在約70年が経過している。音楽学校は約90余年の歴史があり、現在卒業生4,000名を数え、その内2,400名が当音楽学校校舎から卒業している。
- ・ 当該建物は竹中工務店の設計施工によるものであるが、当時の設計資料は残っていない。昭和のモダニズム建築と伝えられており非常に質素な建築で、歌劇の舞台の華やかさとは好対照である。故に建物に価値を見いだすのではなく、そこで行われていた舞台人になるための日々の訓練が行われていた場である事に注目し価値を見いだそうとしている。
- ・ 校門は現存しシンボリックな存在であるので、歩道拡幅の障害になるが移設を行い保存する。
- ・ 現在屋上に設置されている空調機器の室外機等は地上に設置する。設置場所は公園の反対側、すなわち国道176号線側に設置し景観に配慮し植栽によって遮蔽する。
- ・ 改修工事には、建設当初の外観を出来るだけ忠実に再現し、内部についても保存状態の良いものはできるだけ残すように計画している。ただし、1回部分を演劇に使用出来る室としたので、楽屋が必要になり今回新たに増築する。また、建築基準法の規定により屋外非常階段を設置する。

都市再生：本日の協議においては建物を保存して行くに当たって、建物の外壁色等周囲との調和、あるいは景観面で配慮すべき事項、またツタを復元するに当たって考慮すべき点や周囲の植栽計画等々を中心に意見を頂きたいと思っています。

会長：本日欠席されている中嶋委員からのメッセージを発表して下さい。

事務局：中嶋委員から事前に意見を頂いているのでこの場で申し伝えます。

- ①屋上から突出した部分は建築当初からあったとは考えられないので、今回の改修を機に当初の形に忠実に再現していただきたい。
- ②全体としてのイメージ、形、色等、当初から有ったものを調査研究しその結果を出来るだけ忠実に再現することが大切である。
- ③今回の改修と同様なコンセプトで行われた例として、原美術館があるので、そのイメージを参考にすると良い。
- ④外部窓の建具は現在アルミ建具になっているが、昭和の初期はスチールサッシであったので、今回の改修でスチールサッシに改修していただきたい。このことは強く要望する。
- ⑤外壁仕上げ材は当初の色を忠実に再現することが大切である。改修図面

によるとリシンの吹きつけとなってなっているが、当初はスッキリしたデコボコが無い仕上げ材であったと思われるので再考願いたい。

⑥建物に絡まるツタを再現することによって、既存のツタを再生使用としているが、全体的に早くきれいに再現することを第1に考えるべきで、既存のツタにこだわらなくても良いのではないか。

会 長 : 原美術館の詳細は解らないが、増築した部分が有ったとしても全体のイメージを損なわないデザインとしている事や、昭和初期の建物であるならば、スチールサッシが用いられていることを伝えたかったと思われる。

会 長 : 当改修についての実施設計は終了していると聞いたが事実ですか。

都市再生 : 終了していることは事実と言わざるを得ないが、改修に際しては当初の姿を忠実に復元しよう計画したところ、予算の都合によってそこから引き算し現在の設計に至っている。勿論委員からはスチールサッシに改修するよう強く要望されていますが、これも予算上今の形にせざるを得なかった。

今回の改修については行いたい事を十分に満足している設計ではなく、非常に予算的に制約がある中で、ようやくその枠の中に落ち着きつつある。と言う意味で設計が終了していると申し上げた。

当然、設計が完了する前に当審査会に諮って意見を頂くのが本来の姿ではあるが、先に述べたように設計が落ち着かなかった事が原因で今日に至った。

予算の制約で今回の設計内容となったが、当協議会において、景観上強い要望・指摘事項があった場合にはその旨再考したいと考えている。

委 員 : 窓のアルミサッシは、外壁に取り付けられている設備配管と同じように非常に醜い。是非スチールサッシに変更していただきたい。

壁面緑化に付いては、現有のツタ又は新しいツタを用いる事に付いては次の議論とし、先ず最初に考慮すべきは、壁にツタを這わせることによって外壁仕上げ材が傷むことが予想されるにもかかわらず、やはり実行するのか議論したいと思う。たとえば、外壁から少し離れた所に金属製の緑化ネットを張ってそこに絡ませた方が、外壁は傷まずに緑化も早くきれいに仕上がると思える。

公園に屋外ステージを設けているが、音の出る方向が集合住宅方向に向いていて、このままでは音に対する苦情が出るのではないかと憂慮される。

委 員 : 壁面緑化として壁に直接ツタを這わせると外壁が傷むので再検討が必要だと思われる。また、現況の写真をみると窓の防虫網戸にまでツタがからみついていてようなので、今後そのようなことが起きないように防虫網戸を取り付けない方向での検討は必要と思われる。

窓のアルミサッシは是非スチールサッシに変更されるよう要望する。

屋上に設置されている高架タンクやアンテナ、外壁をつたうパイプ類、窓に取り付けられた換気扇カバー等は全て撤去するのですか。

都市再生 : 指摘の有った設置又は取り付け物は今回の改修で撤去します。換気扇のウェザーカバーは窓ではなく壁に取り付ける予定です。

委 員 : 壁に取り付けた場合、ツタが延びてきた時の対策を講じておかねばならな

い。

委員：現況の写真と設計立面図を比較するとサッシの形状が異なっているが、今回の改修で変更するのですか。サッシの色は変更しないのですか。

都市再生：形は戦前の写真などを参考にして、出来るだけ建設当初の姿を再現したいので窓サッシは改修します。しかし色はアルマイト色です。

委員：スチールサッシに出来ないのであれば、出来るだけ鉄色に近いカラーサッシを検討してもらいたい。

委員：外壁色については建設当初の色が解らないが、提案されている色は概ね良いかと思われる。又、屋上から突出している工作物の色については10YR8.5/3を提案されているが、10YR7.0/3にした方がよりよい結果が得られると思われる。また外壁色も10YR8.5/1の提案であるが少し白く見えるので10YR/7~7.5/1~2の方がよいと思われる。

委員：外壁にツタを這わせる事については、既存のツタにこだわって再生させる必要はないと思われる。新しく現代の知恵を活かしたツタでよいのではないか、病気に強く、虫が付きにくく、落葉しないそのようなツタを組み合わせるといつもきれいな緑の葉が出ている様にすべきであると思われる。

会長：ただ今の委員の意見については、緑が専門の委員に意見を求めて下さい。

事務局：後日意見を伺おうと考えています。

委員：以前本件の事で市民を対象にしたワークショップを行ったと聞いた事がある。今回の設計においてそれらの意見をどの様に取り入れているのですか。

都市再生：建物や野外ステージの使い方についての意見はありましたが、景観に関する意見はありませんでした。

委員：野外ステージの設置については音の問題が発生するが、その音の問題も景観の一部であると考えてるので議論の対象になると考える。現設計のままでは共同住宅の方向に音が出るので再考が必要だと考える。

委員：この建物をアピールするものが有れば是非残したいと思うのだが。唯一考えられるのが門扉だろうか。これは是非残していただきたい。

都市再生：歩道の拡幅に障害となるので移築し、既存のまま復旧します。

会長：窓については予算の都合上アルミサッシでやむを得ないと思うが、形状については建設当初に似せた形としてください。また、屋外非常階段に使用されている鉄骨についても景観的に言えば細く目立たない様工夫してください。

窓枠に取り付く水切り、屋上パラペットの笠木など無彩色のアルミ板を用いないよう注意して下さい。

委員：立面図に丸窓が見えるがこれほどの様なものですか。

都市再生：非常に質素なデザインの中で唯一この建物を印象づけるがこの丸窓です。これは外壁に設けられている他、内部の壁にも設けられており、今回の改修において建設当初の形で残す計画としています。また、委員から指摘のあった外部窓サッシは予算が許されるならば変更したいと考えています。

会長：委員からの意見は以上とし、本日の会議を終了する。